

日本の会社の経営

十五年前の『上司が鬼とならねば部下は動かず』は爆発的に売れて今もまだ書店に並んでいる。以来「鬼」のタイトルの本を続々出した。しかし一作目のように部数が出たものはない。この秋十冊目『ザ・鬼上司』を出した。これが最後、「鬼」のラストランである。やはり線香花火だろうな。

男の青春は四十後半から十年

アメリカの田舎詩人サミュエル・ウルマンの晩年の作品「青春」は死後に「発見」されて世界に広まった珍しいケースである。

会社の社長室などに岡田義夫訳の「青春」が額に入れて飾られているのをよく見る。昔、経営の神様といわれる松下幸之助がこの詩をほめ讃えた。それもあって経営者たちによる「青春の会」の運動まで起き、みなに知られるようになった。

「青春とは人生のある時期をいうのではなく、心のあり様をいう」では、情熱、意志力、思考力などが青春の証であり、八十歳の青年もいと説く教訓詩である。

九十四歳でなくなった松下幸之助は、八十六歳の時に私財七十億円を投じて松下政経塾を作った。国の将来を憂い国を救わんとする情熱的行動である。青春まっさかりである。

幸之助が一番多い時で妻が十一人いたという。社員が知っている公然の秘密だった。

台湾のクラブでホステスたちをキヤーカーいさせて大声で猿談を続ける爺さんがいた。

そこに居合わせた社長が「誰だあいつは」と聞くと松下幸之助だという。「いつもあの調子です」とホステスは言ったという。私は

た人である。こうした中に七十過

ぎてピークを迎える遅咲きの人もいるが例外といえる。

二十代、三十代は仕事を覚え能力を伸ばす時である。未熟なことから親方にどなられても耐えなければならぬ。無理だと思っても「できない」と逃げてはならない。「私があります」と手を挙げて困難に挑戦する。辛くても泣き言を言わず、根性で乗り切らなければならぬ。我慢、忍耐、努力の時である。隠忍自重、雌伏の時である。

この蓄えたものが満を持して一

自分が本を出すと気になることが三つある。

- ①読んでくれるかどうか
- ②どの程度売れるか
- ③評価、感想は

九月に『ザ・鬼上司』（ブレジデント社）が出た。私の本は大体二〇〇ページ前後だが、これは二九〇ページで「こんな社員になりなさい」（C&R研究所）の三二五ページについて厚い。文字数では断トツである。

読んでくれた方の評価はどうか。「ベリー・グッド」（日高見一位 積算事務所・時松社長）

「本の題と内容が合っていますね。『新帝王学』ですね。最後のほうは何だか遺書みたいですね」（旭紙工・橋野社長）

「言葉の結晶です。赤線を引きながら読みました。今後、繰り返し

「人生の春、青春は十代二十代の頃をいうのではない。知識も経験も足りない青二才をどうして青年と呼べよう。男が最も力を発揮する時、活力みなぎり大きい仕事を成しとげる時、それは四十代後半あたりからである。人によって多少の誤差はあるが大半の人にとってこの時期が青春だ！」

ウルマンは七十八歳の時「青春」の詩を書いたそうだが七十四歳の私ならこのように書き始める。

青春プレイバック『ザ・鬼上司』

「うちの幹部管理者のための内容です。三十六冊注文明します」（天昇電気工業・石川社長）

「五十冊サインしてください」（ジャスティン・鈴木会長）

「幹部だけでなく正社員全員に読ませたいので百二十冊購入します」（タイム技研・丹羽会長）

「『新帝王学』を何十回も聴きましたから、思い当たる文章が随所に出てきてなつかしかった」（武心教育経営塾・近藤塾長）

「読まない人はもちろん、読んで

経営管理講座 323 染谷和巳

も何も言ってくれない人が大半だから、このように著者に直接感想を言ってくれる人は手を合わせたいほど有難い人である。

また相手のいい所を認めて琴線に触れる適切な言葉でほめることができる人は優れた指導者である。これができる上司は部下やまわりの人から尊敬される。私も、人の欠点より長所に目が行く人になりたいものである。

この本は近藤塾長が「新帝王学」をもとにして「新帝王学」を百回は聴いたから今でも一言一句全て覚えている。その文章が出てくるのでいい復習になる」と言っていた。

（株）アイウィルは昭和六十三年六月設立だが、設立前の四月から六月間かけてオーディオ教材「新帝王学」を作り、十月初めから販売した。

当時はバブルの最盛期で中小企業でもお金が多かった。一セツト十八万五千円の教材を買ってくれた。B社の大槻社長は「むだにはなるまい」と購入したが、棚の上に置いたままで、五年たつて初めて開けてみたという。テキストを読んで「なぜか涙があふれてと

「捨てるのはいけないもの」

タイトルは「小説中小企業・日本の経営の特性」だった。出版社が「ザ・鬼上司」にした。内容は「日本の経営」の一本道である。何でも簡単に捨ててしまおうのが日本人の悪い癖。「日本の経営」は使いた古された言葉だが捨ててはいけないものがあった。

日本の経営の源は石田梅岩の石門心学である。心学などというとかか難しい学問のようだが、一言で言えば「儉約と勤勉によって家の繁栄と存続をはかる」で私たちの生活に溶け込んでいる考え。松下幸之助は石門心学の徒であり、現役の時「リストラはしない」と断言した。また松下政経塾を作

「捨てるのはいけないもの」

「書店で売る本に作り直してください」という声があがった。

限定されたお客様対象の教材である。会社相手の電話セールスによる一本釣りの商品である。それも二十八年前のもの。知る人は極めて少ない！

よし！書き直してみよう。時代に合わない所は削除し、今も変わらない原理原則は残す。こうした経緯でこの本は出た。私の青春のプレイバックの一冊である。

「捨てるのはいけないもの」

「書店で売る本に作り直してください」という声があがった。

限定されたお客様対象の教材である。会社相手の電話セールスによる一本釣りの商品である。それも二十八年前のもの。知る人は極めて少ない！

よし！書き直してみよう。時代に合わない所は削除し、今も変わらない原理原則は残す。こうした経緯でこの本は出た。私の青春のプレイバックの一冊である。